

学習院大学大学院人文科学研究科
2019年度 学生募集案内

身体表象

Graduate Course in Cultural Studies on Corporeal and Visual Representation

文化学専攻

演劇、映像、マンガ・アニメーション
身体表象文化論(ジェンダー研究)
身体表象文化史を統合する
新しいアプローチ

身体表象文化学の特色

身体表象文化学は

舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーションを対象とし、イメージ媒体として身体が作り上げてきた文化的意味を問い直す新しい学問領域です。

本専攻では、舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーションという領域への新たなアプローチを行い、言語圏・地域を越えた視点から、身体表象に関わる文化学として、より幅広く、より深く学ぶことができます。

何をどう学べるのか

本専攻は、

- (1) 舞台芸術、(2) 映像芸術、
- (3) マンガ・アニメーション、
- (4) 身体表象文化論（ジェンダー表象を含む）、
- (5) 身体表象文化史という5つの領域を柱としています。

本専攻に所属する学生は、

このうちの1つの領域を軸としながら、他の領域も横断的に履修することによって、研究の視野を広げることができます。

修士論文および博士論文では、選択した領域のテーマに関して論文を執筆することになります。

授業には「演習」と「批評研究」の2種類の科目があり、演習科目では専門分野における基礎的知識の確実な習得、批評研究科目では応用能力の開発と批評技法の習得を目指します。

修了後の予想される進路

本専攻は、演劇、映画、マンガ・アニメーションの領域において、批評研究活動をおこなう人材をシステムティックに育成する全国でもきわめてユニークな教育機関ですので、


将来この領域で国際的に情報発信をする人材の育成が期待できます。

従来の専攻領域・専攻分野では、十分な教育ができなかった対象について、専門的な知識をもつ研究者を育成し、

また、舞台・映像関係の分野で

文化事業にかかわる職を志す人材や、

現行の学芸員資格がカバーしていない職種で活躍しうる人材を育成していきます。



マンガやアニメの学科を設ける大学はかなりのありますが、多くは実作者を育てることが目的です。いっぽう、本専攻は、産業のための人材養成ではなく、現代芸術の最先端をゆくマンガ・アニメーションを本格的な学問領域に高め、その創造力の秘密を解明していきます。本専攻の夏目房之介教授は、独力でマンガ表現論を切り開いた先駆者です。夏目教授が率いるマンガ・アニメ研究は、本専攻の演劇、映画、表象文化論とならぶ大きな柱です。視覚優位の現代文化において、身体の表象（イメージ化）やパフォーマンス・アーツ（舞台芸術）はきわめて重要な役割をはたしています。それらを大きな文化的枠組みのなかで研究することは、現代世界の理解になくてはならない学問領域なのです。本専攻はそうした表象文化論の基礎を学生に提供し、さらに専門研究に進んでもらいます。アニメーションは映画の一部門であり、その研究には映画史や映画理論の知識が必要です。本専攻は中条省平教授を中心に、映画論の講義も充実し、また、マンガ編集者でありマンガ・アニメ評論で活躍する佐々木果（ササキバラ・ゴウ）講師の演習もあり、アニメーションをマンガや映画などイメージ文化一般との連関の上で広く深く学べます。マンガ・アニメ、映画や演劇・ジェンダー研究に興味のある学生が、各々のジャンルの深さに新たな感動を味わい、芸術と学問のより高度な段階に上げられることを約束します。

新しいアプローチ

授業科目 (2018年度)

舞台芸術領域

舞台芸術文化論演習

ティエリ・マレ

古代ギリシャ以来の演劇史を調査し、「悲劇」の変化を研究し、その概念の本質的なアポリアについて考察していきます。

舞台芸術文化論演習

横山 義志

今日の社会状況のなかで、舞台芸術の必要性を訴えることは可能か。参加者自ら仮説を立て、資料やフィールドワークをもとに検証し、意見を表明してもらう。

舞台芸術批評研究

横山 太郎

伝統芸能から現代劇に至る日本演劇の重要作品を読み、(日本語と身体)(物語におけるセリフとナレーションの関係)等の問題について考察します。

表象文化制度論演習

松井 憲太郎

劇場とはいかなる場所かという問いを軸に、日本やアジア、ヨーロッパの演劇を、映像などを用いつつ实际的に検証するとともに、日本近代演劇史を解説する作業を行います。

表象文化制度論演習

柴田 隆子

舞台芸術を中心とした芸術を支える制度の歴史の変遷を学び、今日の文化状況を理論や文化政策の観点から考察していきます。

身体表象文化論領域

身体表象文化論演習

大貫 敦子

ジェンダー研究の基礎となる理論への導入を行うとともに、具体的な身体表象の事例について、それらの理論にもとづいて分析を行います。

身体表象文化史領域

身体表象文化史演習

中野 春夫

娯楽作品を対象として、視覚文化における身体の表象が歴史的に(あるいは地域的に)どう変化してきたのかを探っていきます。

映像芸術領域

映像芸術文化論演習

中条 省平

さまざまな映画作品や監督を取りあげ、そこで映画の技法がどのようにリアルな表現としての力を発揮しているかを示していきます。

映像芸術批評研究

飯岡 詩朗

写真や初期映画からニューメディアまで、映画を中心に映像文化にかかわる諸問題を、理論的・歴史的に考察していきます。

映像芸術批評研究

溝口 彰子

理論の講義、論文の講読、映像の分析を通して映画における同性愛表現を考察します。

マンガ・アニメーション領域

マンガ・アニメーション芸術批評研究

夏目 房之介

作品、文献の講読など、学生の研究発表を重視。相互の議論を通じ、広い視野を共有できる指導を目指します。

マンガ・アニメーション芸術文化論演習

夏目 房之介

批評研究ゼミの課題に加え、できるだけ講師を呼び、具体的に取材を行い、より密な討議と発表を求める授業です。

マンガ・アニメーション芸術文化論演習

佐々木 果

アニメーションを対象として、広く近代のメディア史や文化史の視野の中で、批評や研究のあり方を検討していきます。

教員紹介 (2018年度)

ティエリ・マレ

本学専任教員

学習院大学教授

専攻はフランス演劇、演劇史。演劇制作の多様な側面を考慮に入れて、演技・演出とエキリチュールの関係を研究する。

大貫 敦子

本学専任教員

学習院大学教授

身体表象の形成とその文化的・社会的作用のメカニズムを、特にジェンダー差異に着目して研究。

中野 春夫

本学専任教員

学習院大学教授

ルネサンス期の視覚的表象文化を見世物、歌謡、魔術、魔女狩り、王権理念、ファッション、結婚制度など、多様な視点からの考察を行う。

中条 省平

本学専任教員

学習院大学教授・映画評論家

パリ大学文学博士。「フランス映画史の誘惑」から「クリント・イーストウッド」まで、幅広い著作活動で映画の面白さを説きあかす。

夏目 房之介

本学専任教員

学習院大学教授・マンガ批評家

マンガ家、ライターからマンガ批評家に転じ、マンガ表現論を展開。手塚治虫文化賞特別賞受賞。

柴田 隆子

本学専任教員

学習院大学助教

博士(表象文化学)。専門は20世紀初頭ドイツ語圏の舞台芸術理論、舞台芸術における演劇と舞踊の境界領域の研究を行う。

横山 太郎

非常勤講師

舞台芸術領域 跡見学園大学教授

専門は演劇学(特に能楽)、身体文化研究、芸術思想。哲学・現代演劇・文学理論・人類学などと能との接点を探る学際的研究を行う。

松井 憲太郎

非常勤講師

舞台芸術領域 富士見市民会館キラリふじみ館長

世田谷パブリックシアターをはじめ多くの企画制作を手がけてきた制作のプロ。公共劇場のあり方、アジア演劇等にも幅広い眼をもつ。

横山 義志

非常勤講師

舞台芸術領域 SPAC・静岡県舞台芸術センター文芸部、西洋演技理論史

静岡で毎年開催される国際演劇祭のために世界各地を訪れて演劇状況を調査する傍ら、古代ギリシアから今日に至るまでの西洋演技理論史に関する研究を発表。

飯岡 詩朗

非常勤講師

映像芸術領域 信州大学准教授

1930-50年代のハリウッド映画を中心に、映画を人種やエスニシティ、ジェンダー等との関わりながら研究。また、NPOによる自主上映活動に携わりながら、地方における映画上映・受容史の調査も行う。

溝口 彰子

非常勤講師

映像芸術領域 ビジュアル&カルチュラル・スタディーズ

主にクィア理論、フェミニスト映画理論を用い、レズビアン&ゲイ映画、ヤオイ(BL)、現代アートを研究。

佐々木 果

(ササキバラ・ゴウ)

非常勤講師

マンガ・アニメーション領域 アニメ・マンガ史研究者

編集者・評論家として広く活動しながら、主に19世紀以降のアニメ・マンガなどのメディア史について専門的に研究する。

授業風景



■舞台芸術文化論演習
■ティエリ・マレ教授

「舞台芸術文化論演習」では、古代ギリシャ・ローマから18世紀まで、代表的な喜劇作品を取り上げます。戯曲の邦訳を読むだけでは感じ取れない、台詞に隠された言語的な魅力を学び、マレ教授の熱意溢れる演技指導の下で、喜劇とは何かを探ります。写真はアーティストファネス「鳥」の実践ワークショップ。



■マンガ・アニメーション芸術文化論演習
■夏目房之介教授

「マンガ・アニメーション芸術文化論演習」は、学生たちの発表と講義、講読など、学生中心のゼミです。自主的にプレゼンテーションを行い、学生同士で討議し、発言の積極性、説得力、コミュニケーション能力の向上を目指します。その過程で論文を書くための分析、構成、表現能力をお互いに高めていきます。未踏の研究領域を相互の刺激と研鑽で発展させる自主性が重要です。

メッセージ

来年度の入学希望者へ向けた
修了生・在学生からのメッセージ

33年前、宮崎駿のマンガ版「風の谷のナウシカ」の連載が始まりました。私はこの作品で卒業を書きたいと考えましたが、当時それは夢のまた夢でした。28年たって「不惑」もとうに超えた私は一大決心をします。夏目房之介先生に教えを請い、あの時できなかった「ナウシカ」論を書き上げようと、身体表象文化学専攻の扉を叩いたのです。

学問領域の一つとして思いきりマンガ・アニメを研究できる環境。すばらしい先生と気の置けない仲間たち。まるで学部生の頃に戻ったかのように気持ちがあふれたのを今でも覚えています。

マンガやアニメを研究したい人は、まだ踏み荒らされていない未踏の原野が目前にあります。その分、苦労することも多いでしょう。しかし、やりがいもあります。広大なマンガ・アニメの世界で何を研究するのか、したいのを見失いそうになるかもしれません。しかし、自分のしたいことをしっかりとつかみ、ぜひあなたも身体表象文化学専攻の扉を叩いてください。

2014年3月博士後期課程修了
高校教諭

砂澤 雄一



学部時代は美術史を勉強していましたが、マンガを専門的に研究してみたいという気持ちから、身体表象文化学専攻に入学しました。当初、研究の基礎さえできていなかった私にとって論文を仕上げるということは無謀な挑戦にも思えました。けれど、夏目房之介教授の丁寧な指導や頼りになる先輩方、切磋琢磨できる同輩たちのおかげで、好きなことを研究できるということ以上に恵まれた環境だったと思います。

現在は主にマンガの展覧会の企画・制作に携わっています。展覧会という「場」を通じて観客に伝えたいことは何か、またマンガというメディアの魅力を活かした展示にするためにはどうしたらいいか、試行錯誤の毎日ですが、学習院のゼミで学んだことが自分の仕事の輪になっていると感じます。

2012年3月博士前期課程修了
キュレーター

吉村 麗



演劇って何だろう？

シェイクスピアはハムレットの口を借りて「演劇は時代を決す鏡」だと答えました。私なら何と答えられるでしょうか。

この問いの答えを、研究者は論文を書き読者に伝えます。演出家は作品を作り観客に伝えます。

後者でもある私は、作り手の視点で19世紀末ジャポニズム演劇を研究し、研究と現場の双方の世界の「ことば」を理解できれば、独自の視点を持つてると考えました。物事を多面的に捉える視点を養うことの出来る本専攻は、私には他には得難い「研究室」であり、「知の稽古場」でもあるのです。

2017年3月博士後期課程修了
大学専任教員

多和田 真太良



学部時代は日本文学部に在籍していましたが、予てより「シネフィル」であった私は、卒業後も「映画について論じたい」という思いがあり、身体表象文化学専攻の博士前期課程に進学しました（中泉省平先生の著書が、学部時代からの私の愛読書であったことが当専攻を選んだ大きな理由です）。

現在、博士後期課程に在籍している私の研究のテーマは、映画にとって「音楽」がどのようなものであるかを提示することです。無謀にも思えるテーマですが、先生方は私の意向を尊重して親身になってご助言下さるので、自由に研究を進めることができている。

身体表象文化学専攻は、他にも演劇・マンガ・アニメーションといった各芸術に興味がある方、あるいはそれぞれを「横断」しながら幅広く学びたい方も対象としています。特に博士前期課程の段階では、各メディアを比較しながら研究の基礎を固めていくことが重要になりますし、それができるとが当専攻の最大の魅力であると考えています。

博士後期課程に在籍中

兼宗 朋史



博士論文

これまでに提出された博士論文の一例をご紹介します。

【演劇】

- 「空間創造と位相の身体—オスカー・シュレンマーの舞台芸術理論」
- 「19世紀西洋演劇におけるジャポニズム—「日本」の表象の変遷」

【映像】

- 「映画における屠畜・食肉の表象—フランスとアメリカの作品の検討を中心に」

【マンガ・アニメーション】

- 「漫画版『風の谷のナウシカ』における生成論的研究—コミックス成立時における改稿から見た作品分析」
- 「日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象」

奨学金

学習院大学大学院 人文科学研究科は大学院生の研究活動を経済的にも支援しています。

1. 特別研究費

希望者全員に、博士後期課程20万円／博士前期課程5万円を支給

2. 返還不要の奨学金

「安倍能成奨学金」45万円(例年、研究科から7名程度)

「学習院大学学業優秀者給付奨学金」(30万円、毎年専攻から、博士前期課程の院生1~2名)

3. TA・RA制度

多くの院生がTA(ティーチング・アシスタント)・RA(リサーチ・アシスタント)としてアカデミック・キャリアを積んでいます。TA・RAには、報酬が支給されます。

4. 学会発表への補助(国内・海外)

国内：交通費と宿泊費(1泊5千円)を補助

海外：交通費・宿泊費の一部を補助(遠航地域により金額は異なります)

5. 博士論文刊行助成

博士論文刊行の費用を、50万円まで助成

2019年度(平成31年度)入学試験

博士前期課程	秋期入学試験 (募集人員約5名)	筆記試験: 2018年9月15日(土) 口述試験: 2018年9月16日(日) 出願期間: 2018年8月16日(木)~8月20日(月)
	春期入学試験 (募集人員約5名)	筆記試験: 2019年2月17日(日) 口述試験: 2019年2月18日(月) 出願期間: 2019年1月8日(火)~1月10日(木)
博士後期課程	(募集人員約3名)	筆記試験: 2019年2月17日(日) 口述試験: 2019年2月18日(月) 出願期間: 2019年1月8日(火)~1月10日(木)

人文科学研究科大学院説明会

第一回 2018年 8月 4日(土)午後3時~

第二回 2018年10月27日(土)午後3時~

当日は専任教員・院生が当専攻の概要を説明すると共に、参加された皆さんからの質問・相談をも受け付けます。
尚、出願資格、試験科目など、入学試験に関する詳細情報は、下記アドミッション・センターHPでご覧いただけます。

問い合わせ先

人文科学研究科学生募集要項の請求、および入学試験に関するお問い合わせは、下記にて受け付けております。

学習院大学アドミッションセンター (西5号館4階)

〒171-8588東京都豊島区目白1-5-1 TEL 03-5992-1083・03-5992-9226 受付時間 平日9:00~16:30 土曜9:00~12:00
URL:<http://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/>

専攻に関するお問い合わせ

学習院大学大学院人文科学研究科身体表象文化学専攻(北2号館6階)

TEL 03-5992-1404 FAX 03-5992-1247 研究室時間 平日10:00~11:30・12:30~18:00、土曜日9:00~12:30
E-mail:cscvro@gakushuin.ac.jp URL:<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/g-hum/cult/>